

Debian 勉強会

2006 年 4 月 15 日版

上川

2006 年 4 月 15 日

本日の agenda

- 注意事項
 - 飲食禁止
 - 政治/宗教/営利活動禁止
- 18:00-18:10 Social Contract 唱和
- 18:10-18:45 クイズ
- 18:55-19:30 Debian TeX
- 19:45-20:20 Debian Policy: source 編
- 20:30-20:50 前回の勉強会報告
- 21:00- 宴会 @ 一汁一菜 遇

ユーザの声

... 日記や、思いつきのメモを書くためには hiki と Web ブラウザを使っています。どこからでも更新・参照でき、最低限の文書構造を表現できるので Wiki を使っています。難点は、hiki の編集モードが W-ZERO3 + Opera 環境からだととても使いづらいところです。

ユーザの声

基本的に議事録とかは後々メールに貼付けたり添付したりするので、bluebird でテキスト作成して、他のユーザーを巻き込むような案件での文章は Open office を使って相手が microsoft office を使って開けるように気をつけています。相手が powerpoint で開くとかならずレイアウトが崩れている！と嫌みめいたメールが来ますがそこはあんまり気にしないようにしてます。後はよくする事が thunderbird でメール新規作成をしてドラフトで保存してます。検索が簡単なのとメールでのやり取りが多い&新しく bluebird を立ち上げなくていいので、結構便利だと思っています。

ユーザの声

文書は、mail が一番おおく、つぎは tDiary への publishing です。その次は発表資料作成に、OpenOffice.org の Impress でプレゼン資料を作ります。長文の論文などは、p_AT_EX を使います。最終出力形態は、プラットフォームを意識する 경우가少ない pdf にすることが多いです。英語の文書を作成するときには、辞書とスペルチェッカーが重要です。ebview や lookup.el、ならびに flyspell-mode はよく使います。

ユーザの声

いままで Linux でドキュメントを書くことはありませんでした。プレゼンテーションのときは ooimpress でした。しかし、Debian 勉強会に参加して、自分でも発表を行うようになってから、TeX に目覚め、今では会社のドキュメントも TeX で書くようになってしまいました。

これからは Word なんかを使わず、茨の道を進んでいこうと思います。

ユーザの声



ポリシーの存在



ディレクトリツリー

- /usr/share/texmf-tetex/: TEXMFDIST
- /usr/share/texmf-texlive/: TEXMFDIST
- /usr/share/texmf/: TEXMFMAIN
- /var/lib/texmf/: TEXMFSYSVAR
- /etc/texmf/: TEXMFSYSCONFIG
- /usr/share/texmf-site/: TEXMFSITE
- /usr/local/share/texmf/: TEXMFLOCAL
- texmf.cnf に指定してある TEXMFHOME の値、もしくは環境変数としての値。
- 必須ではない: 各ユーザ用の設定ファイルディレクトリ
TEXMFCONFIG, 生成されたファイルのディレクトリ
TEXMFVAR

下が最も優先される

TeX をビルドに活用する場合

設定ファイルを変更しないとビルドできない場合、設定ファイルのデフォルトを変更するようにメンテナにかけあうことが推奨

日本語処理



日本語処理

日本語の \LaTeX 文書进行处理する方法は複数存在している。Debian に入っているパッケージが実際に使用に耐える状態なのか、調査してみた。

\LaTeX のソースファイルから PDF を生成する処理がどうなっているのかを確認してみた。

platex の入力文字コード

文字コード	可否
EUC-JP	
SJIS	×
ISO-2022-JP	
UTF-8	×

platex の PDF 化

- dvipdfmx: OK
- dvips 経由 ps2pdf: dvips 処理中にフォントが見付からない旨のエラー。PDF は生成されるが、日本語の文字は表示されず
- dvi2ps 経由 ps2pdf: gs の処理中にエラーが表示されて停止 (回避可能)。
- pdf \LaTeX : 直接 PDF を生成できる版は存在しない

デフォルトで PDF まで生成できる状態になっているパッケージは dvipdfmx のみ。

jlatex, multex

小さなサンプルはコンパイル可能。

Debian 勉強会資料になるとクラスファイルなどが足りずエラー。

- jsarticle が無い
- url.sty がエラーになる

p $\text{L}\text{A}\text{T}\text{E}\text{X}$ から簡単に乗り換えられる状態ではないようだ。

multex はインストールしたそのままではフォントが一部足りない。

cjk-latex

インストールした状態では、サンプルがコンパイルできない。
latex-cjk パッケージとしてリニューアル作業中らしい。

lambda/lamed

- “omega (Ω)” “aleph (\aleph)” : $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ を UTF-8 に対応させた版、それぞれの $\text{L}_{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ 。理想としては各国語処理がこの $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ で統合できる
- それっぽく処理はしてくれるようなのだが、utf-8 に対応できている dvi 関連のツールの使い方についての情報が少ないのか、そもそも存在していないのかはわからないが、現状、出力を表示、処理する方法がわからない。
- pdf $\text{L}_{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ 版が存在しないので、日本語文書のみを処理するのであれば p $\text{L}_{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ から移行してもメリットが少ない

先は長い

